

子宮頸がんの状況

子宮頸がんはHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が主な原因で、性交渉経験がある女性なら誰でも罹患する可能性のある病気です。

わが国の女性が罹患するがんの中では、比較的子宮頸がんが多く、特に20歳代から30歳代の若年層で急激に増えています。

がん罹患数の順位（2023年）【全国・女性】

	1位	2位	3位	4位	5位
女性	乳房	大腸	肺	胃	子宮

国立研究開発法人国立がん研究センター

津市がん検診の対象は、 自覚症状のない人です

子宮頸がんの中には急速に進行するがんもあります。月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則など気になる症状がある場合には、次の検診を待たずに婦人科を受診しましょう。



自覚症状がない場合は、定期的に検診を受けることで、がんを発見できる確率は高まります。



20歳以上の女性は、2年に1度
検診を受けましょう

「子宮頸がん」「がん検診」などのがん情報についてもっと詳しく知りたい人は、国立がん研究センターのがん情報サービスをご覧ください。

国立がん研究センターがん情報サービス

ganjoho.jp



～個人情報の取扱い～

がん検診結果や精密検査の結果は、厚生労働省等の指針・ガイドラインに基づいて、市へ報告されます。

がん検診を受けた医療機関以外で精密検査を受診した場合は、検診と精密検査を受診した医療機関間で結果を共有することがあります。

受診者の氏名や住所は、がん検診のアンケートや精密検査の受診勧奨通知等に利用することがあります。

津市や三重県の健康推進を目的に、がん検診や精密検査の結果について統計的な処理を行い、公表することがありますが、その場合個人が特定されることはありません。

津市 健康づくり課 令和8年5月作成



子宮頸がん検診 を受ける方、受けた方へ

早期発見・早期治療で命を守る



国は、受診を特に
推奨する者の年齢を
69歳以下としています

子宮頸がん検診の有効性

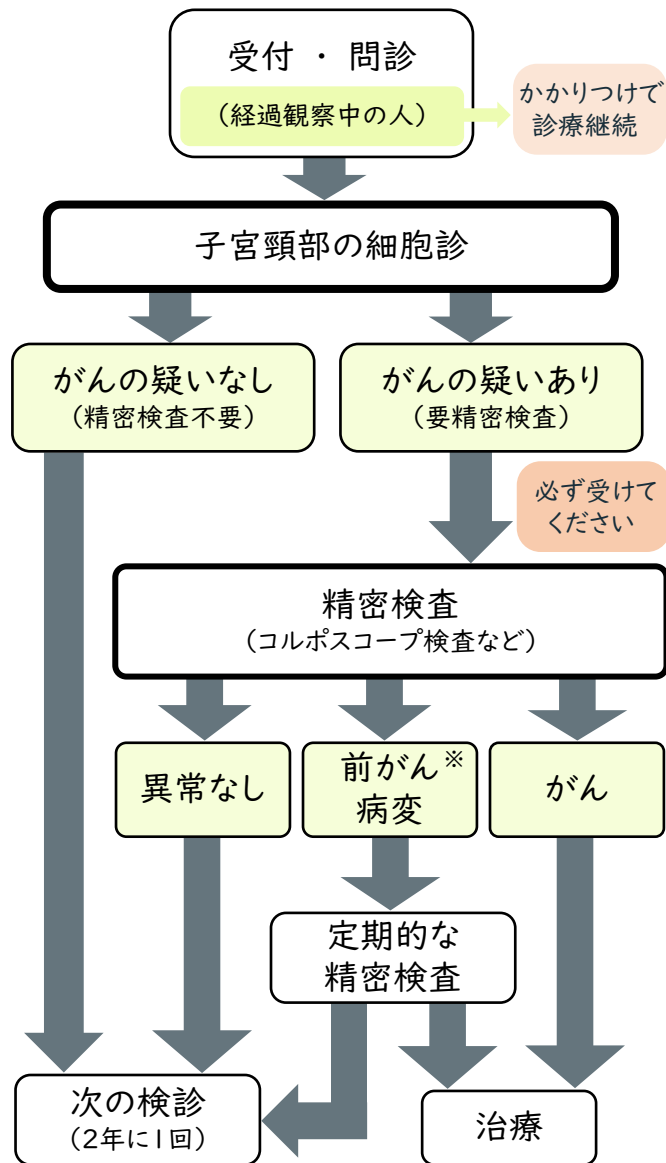
津市が推奨する子宮頸がん検診（子宮頸部の細胞診）は、「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。デメリットよりも、がんで亡くなることを防ぐメリットが大きいことが証明されています。

メリット	早期発見・早期治療	進行していない状態のがんを発見し、命を守ることができる
	安心を得る	検診で「異常なし」と判定された場合、安心できる
デメリット	偽陰性	がんが100%見つかるわけではない（精検不要とされたが、がんだった）
	偽陽性	結果的に不必要な治療や検査を招く可能性がある（要精検とされたが、がんではなかった）
	過剰診断	生命や予後に影響しない、微小で進行の遅いがんを見つけてしまう

原則、一度でも性交渉経験のある人が対象です。まれにHPVが原因でない子宮頸がんもあるため、不正出血や痛みなどがある場合は、婦人科で診療を受けましょう。



子宮頸がん検診の流れ



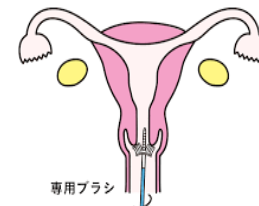
※前がん病変が見つかった時には、状態によって治療を行う場合や医療機関で定期的な経過観察になる場合があります。

子宮頸部の細胞診

膣鏡を使用し子宮頸部（子宮の入り口）の状態を観察し、子宮頸がんの発生しやすい子宮頸部や膣部の表面粘膜を専用のブラシなどでこすって細胞を採取します。採った細胞に、がん細胞など異常な細胞がないかを顕微鏡で調べます。

*細胞診では、細胞採取専用のブラシなどを使用しますので、出血や痛みを伴うことがあります。自然に止血します。

*月経（生理）中は避けて、検査を受けてください。



精密検査は必ず受けましょう！

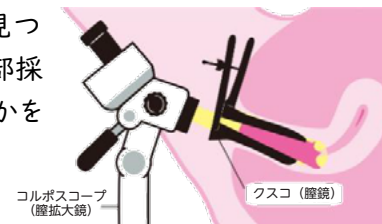
検査の結果、要精密検査となった場合には、必ず検診を受けた医療機関に相談してください。

精密検査の方法

《コルポスコプ検査》

細胞診で異常が発見されたら、コルポスコプ（膣拡大鏡）を使って、子宮頸部を詳しく見ます。

異常な部位が見つかれば、組織を一部採取して悪性かどうかを診断します。



《HPV検査》

細胞診の結果によっては、HPV検査（子宮頸がんを引き起こすウイルスの有無を調べる検査）を行い、コルポスコプ検査が必要かどうかを判断することもあります。